

令和3年度第2回新宿区東京2020大会区民協議会 会議概要

<開催日>

令和3年10月25日（月）

<場所>

新宿コズミックセンター3階 大会議室

<出席者>

新宿区東京2020大会区民協議会委員（23名）

村岡功、鈴木章生、渡邊哲意、山田和男、武山昭英、馬場章夫、古川哲也、
岸田心（※青山豊代理）、安齋正義、今井康之、東紗輝、東章司、山室由実、
的場美規子、安藤博子、金子和子、鈴木ひろみ、桑原ようへい、
吉住健一、寺田好孝、鈴木昭利、酒井敏男、三井梨紗子

事務局（2名）

加賀美東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長、浅野東京オリンピック・パラ
リンピック開催等担当課長

<開会>

【村岡座長】

本日はご多忙のところご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

ただいまより、令和3年度第2回新宿区東京2020大会区民協議会を開催いたします。

さて、東京2020オリンピック・パラリンピックは、まさに前例のない大会になりました。世界的に新型コロナウイルス感染症が拡大する中、史上初めて大会が1年延期となりました。また、参加者と国民の安全を最優先に、多くの会場で無観客開催となりました。

しかし、こうした困難な状況においても、世界中のアスリートが集う舞台を作り上げた人々の絆、そしてスポーツの力は私たちに大きな感動と勇気を与えてくれました。まさに記憶に残る大会となったと思います。

振り返れば、4年前の2017年7月、当協議会は区民、区内関係団体、区が東京2020大会に向けて一体となって取り組んでいくために設置されました。これまで、関係者間の情報共有のほか、大会に向けた地域や区の取組みについて、意見交換を行ってきました。

また、協議会での意見や提案を踏まえ、新宿区では、大会の気運醸成やレガシーの継承に向けた様々な取組みが行われてきました。

本日は、大会期間中の取組みはもちろん、大会に向けたこれまでの取組み全体を委員の皆様にも振り返っていただくとともに、次世代に継承すべきレガシーについても広く発言をいただき、4年にわたる当協議会の締めくくりの場としたいと思います。

それでは、次第に沿って、進行いたします。

次第の2、東京2020大会期間中及び終了後の区の取組みについてです。

前回、第2回協議会は、大会直前の7月9日に開催しました。まずは、大会期間中の区の実施の報告及び大会後の区の事業予定について、事務局より説明をお願いします。

また、大会全体の実施経過についても、併せて情報共有していただければと思います。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

資料1をご覧ください。

はじめに、大会期間中の区の実施について、説明いたします。

3ページをお開きください。

聖火リレーは、オリンピック・パラリンピックともに、公道の走行が中止となりました。実施にあたっては、多くの方にボランティアとして参加していただく予定でしたが、残念ながらその活動も中止となりました。

公道の走行に代わり、オリンピック聖火リレーでは、東京都庁の都民広場で点火セレモニーが開催されました。三井特別アドバイザーのほか、古賀淳也さんや星奈津美さん、スポーツ推進委員の桑島さん、新宿区サッカー協会の神田会長、新宿西戸山中学校の卒業生などがランナーとして参加されました。最終ランナーは、中村勘九郎さんが務められました。

続いて、パラリンピック聖火リレーについてです。

4ページに記載のとおり、8月20日に新宿区役所本庁舎の前で採火式を実施しました。

5ページは、聖火ビジットの様子です。区内の4つの福祉施設にパラリンピックの聖火を運び、各施設においてランタンで展示を行いました。それぞれの施設でセレモニーを実施するなど、盛り上げていただきありがとうございました。

6ページをご覧ください。

パラリンピック聖火リレーの点火セレモニーは、北区にある東京都障害者総合スポーツセンターで実施されました。8月20日の午後、新宿区を走行予定だった23名の方がトーチの聖火をつなぎました。スポーツ推進委員の奥野さんや、高田馬場福祉作業所の利用者の方などがランナーを務められました。

続いて、7ページ及び8ページをご覧ください。

子どもたちによる東京2020大会の応援タペストリーです。本来であれば、区で開催するコミュニティライブサイト会場内に飾る予定でしたが、区施設への掲出や駅前のサイネージによる放映等で、広くご覧いただきました。

9ページをお開きください。

コミュニティライブサイトに出演予定だった団体から動画を提出していただき、区施設のサイネージで放映しました。

続いて、10ページです。

学校連携観戦プログラムでは、子どもたちが国立競技場で実施されたパラリンピックの陸上競技を観戦しました。参加した子どもたちの写真や感想などを掲載しています。

11ページをご覧ください

大会直前に、早稲田大学と連携し、オリンピックに出場した難民チームの受入れを行ったも

のです。アフガニスタンやシリア、南スーダンといった国の選手たちが来日しました。区としては、感染防止マニュアルを作成し、選手団に提示して守っていただいたほか、PCR検査の検体の回収等で協力を行いました。

また、小学生及び幼稚園の児童・生徒に作品を作っていただき、選手団と交流を図りました。直接の交流はできませんでしたが、こうした間接的な交流が実施できたことは、一つの成果として捉えています。

続いて、大会後の取組みを紹介いたします。

14ページをご覧ください。

大会を振り返る取組みとして、11月下旬からスポーツセンターで報道写真展を実施します。朝日新聞社の協力を得て、報道写真のほか、大会中に出された号外などを展示する予定です。

また、10月1日より順次、聖火リレーのトーチが区内の各小中学校を順番に回り、児童・生徒が記念撮影をするといった取組みが行われています。

続いて、15ページです。

聖火リレートーチのほか、大会にまつわる品々を区の施設で展示します。現在、トーチは区役所第一分庁舎地下2階と新宿スポーツセンター2階の2か所で展示しています。

また、令和4年の2月には、銘板の設置を予定しています。こちらは、パラリンピック聖火リレーの採火式を行った区役所本庁舎1階に設置する予定です。

最後に、17ページをご覧ください。

新宿2020サポーターは、最終的に500名の方に登録していただきました。ただ、昨年、今年となかなか活動の場が提供できなかったため、先日、サポーターの皆様に向けて、新宿区のボランティアガイドをお送りしたところです。しかしながら、ボランティアの気運をどのように継承していくかについては、今後検討が必要と考えています。

資料1の説明は、以上です。

【村岡座長】

ありがとうございました。

学校連携観戦プログラムについて、酒井教育長から補足がありましたら、お願いします。

【酒井委員】

資料1でご覧いただいたとおり、子どもたちは様々な形で、オリンピック・パラリンピックに関わりを持つことができました。特に10ページの学校連携観戦という形で、パラリンピックの陸上競技とマラソンを見ることができました。

しかし、参加者は小学校で約8割、中学校で約3割ということで、保護者の同意が得られず、参加できなかった子どもたちもいました。そのため、小学校では、障害スポーツの日を定めてボッチャ大会を開き、中学校では、参加した生徒がタブレットで撮ってきた画像をプレゼンテーションして、参加できなかった生徒がそれについて質問する時間を設けるなど、参加できなかった児童・生徒に関しても、十分にフォローアップを行いました。

子どもたちの感想は様々ですが、特にボランティアの方々が、会場の入口で子どもたちに手

を振り、行きは「楽しんできてね」、帰りには「面白かった?」「楽しかった?」と声をかけてくれたことに、とても感動したということでした。非常に良い経験となったのではないかと思います。

新宿区では、パラリンピック競技5種目の体験学習を継続して行ってきました。その集大成として、パラリンピックの競技観戦を実施しましたが、子どもたちはパラリンピックを見て、何事も途中で投げ出しはいけないということを強く思ったようです。これも、子どもたちにしっかり記憶と知識を定着させてきた、学校現場の一つの成果と捉えています。

本当に子どもたちにとっては、様々な形で貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

【村岡座長】

多くの自治体が中止とする状況の中、新宿区では、小学校で8割近い子どもたちが参加されたことを大変喜ばしく思います。

それでは、委員の皆様から何かご意見、ご質問がありましたら、お願いいたします。

【委員】

パラリンピック聖火リレーの採火式に関わることができたことは、自分の人生の中でも非常に大きな思い出として心に刻まれました。

また、聖火ビジットは、今回初めて区内の福祉施設で実施するにあたり、オンラインで各事業所をつなぎ、作業所に通われている障害者の方々から聖火ビジットの到着を待ち望む期待感を共有することができました。

そして、パラリンピック聖火リレーの点火セレモニーについても、参加させていただきました。高田馬場福祉作業所の方が聖火ランナーとして登場した際には、とても勇敢な姿に、会場に来られた関係者の皆様が非常に喜んでいと実感しました。

学校連携観戦プログラムについては、娘が参加させていただきました。娘が家庭に帰ってからもパラリンピックに関する話をしたり、ボランティアについて考えてみたりと、大変有意義な時間を過ごすことができました。パラリンピック期間中、同じ熱気の中で、同じ時間を過ごせたということは、本当に良かったと思います。

コロナ禍で、非常に困難な部分が多かったと思いますが、関わっていただいた皆様、ありがとうございました。

【村岡座長】

精力的に参加していただき、ありがとうございました。

【委員】

同じく観戦に行った子どもの話になります。娘はパラリンピック競技観戦に行った際、陸上競技でゴールした方がその場でプロポーズをしたという、ドラマチックなシーンを見られたことを大変喜んでいました。

子どもたちは、一生懸命取り組んでいることに参加しているという空気を肌で感じたようです。娘が教育的な意義まで理解しているかはわかりませんが、参加できたことを実感できた、

その機会をいただけたことに感謝しています。ありがとうございました。

【村岡座長】

お子さんにとって、生涯忘れることのできないすばらしい経験になったのではないかと思います。ありがとうございました。

【委員】

スポーツ推進委員として、オリンピック聖火ランナーに1名、また、パラリンピック聖火ランナーにも1名参加させていただきました。スポーツ推進委員協議会としても、皆で応援しました。

それぞれの委員は、昨年からは子ども園、幼稚園をボッチャの紹介で回っています。昨年と今年で違うところは、パラリンピックでボッチャを見た子どもたちがいるということです。テレビで見たということで、子どもたちの好奇心が旺盛で、先日行われた親子のレクリエーションのボッチャでは、子どもたちが父母の方々と一緒に真剣に競っていました。こうして子どもたちの記憶の中に、少しでもパラリンピックが残るのではないかと考えています。

引き続き残っている幼稚園、子ども園を回りますが、スポーツ推進委員として関わることができたことは、良い思い出になると思います。

【村岡座長】

ありがとうございました。

それでは、続きまして次第の3、東京2020大会に係る区の実施の総括について、です。

次第の2において、事務局より、東京2020大会に向けた区の実施を報告書にまとめている旨の説明がありました。この報告書の概要を事務局より説明していただき、これまでの実施全体を振り返りたいと思います。

その上で、意見交換の時間を設けます。今回は最後の協議会となりますので、ぜひ委員の皆様一人一人から、区のこれまでの実施や大会のレガシー等について、一言ずつコメントや感想などを頂戴できればと思います。

それでは、まずは事務局より、説明をお願いいたします。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

報告書は、現在制作を進めており、12月中の完成を見込んでいます。できあがり次第、委員の皆様にお送りさせていただきます。全体で100ページほどのボリュームを想定していますので、本日はその概要を抜粋する形で紹介させていただきます。

章立てとしては、第1章「東京2020大会の概要」、第2章「区における東京2020大会に向けた実施」、第3章「東京2020大会期間中の実施」、最後に、第4章「東京2020大会のレガシー」という形でまとめています。

第2章の大会に向けた実施としては、当区民協議会をはじめ、気運醸成イベントやシティドレッシング等、平成29年度から令和3年度までに行ってきたさまざまな実施を時系列で掲載します。

当区民協議会は、平成29年7月からスタートし、4年以上にわたり、色々な議論をしていただ

きました。特に平成30年度及び令和元年度に関しては、部会において議論を深めていただき、その意見や提案に基づき、新宿2020サポーター制度の創設や、多くの団体の皆様に主体的に参加していただく形でのカウントダウンイベント等が実現したものと考えています。

また、第2章では、協議会よりもさらに前、大会招致の段階における取組みとして、新宿区町会連合会で署名を集めた実績も紹介いたします。さらに、新宿区のスポーツ栄誉賞についても、掲載する予定です。

気運醸成イベントは、平成29年から実施してきたイベントの一覧を掲載します。振り返れば、本当に懐かしいイベントが多数ある一方で、昨年一年間はイベントが実施できませんでした。しかしながら、合計すると延べ4万人近くという大変多くの方に気運醸成イベントに参加していただいたことは、大きな成果ではないかと捉えています。

また、区独自ボランティア「新宿2020サポーター」制度は令和元年5月からスタートし、登録者数は500名まで伸びたものの、やはり昨年はほとんどイベントができなくなかったため、実際の活動に参加した方は、延べ130名ほどにとどまりました。このため、登録された500名の皆様への今後の働きかけが課題であると認識しています。

それから、第4章では、大会のレガシーについてまとめています。

有形のレガシーとしては、例えば、路上の配電地上機器に掲出した子どもたちの絵は320か所ありますが、令和6年度まで引き続き掲出する予定です。また、聖火リレートーチなど、大会の記憶を伝える品々も今後様々な場所、様々な機会で開催を行い、東京2020大会を振り返る機会を作っていきたいと思います。

また、そうした有形のレガシーだけではなく、これまでの取組みを通じた体験や経験、ボランティアマインドなど、今回の大会を通じて築き上げてきたものを、今後の区の事業推進に活かしていきたいと考えています。

現在、報告書は編纂作業を進めています。当協議会委員の皆様からの意見も反映していきたいと思いますので、意見がありましたら、よろしく願いいたします。

【村岡座長】

ありがとうございました。

100ページを超える程度の報告書になるようです。間もなくできあがると思いますので、楽しみにお待ちしております。

それでは、これまでの取組み、あるいは大会のレガシー等について、委員の皆様より発言をお願いいたします。

はじめに、三井アドバイザーをお願いいたします。

皆様ご存じのとおり、三井アドバイザーは新宿区ゆかりのトップアスリートとして、リオデジャネイロ2016大会の経験、そして知見を基に、いつも当協議会に貴重な助言をいただき、また、気運醸成イベントにも多数出演していただきました。それでは、三井アドバイザー、よろしく願いいたします。

【三井特別アドバイザー】

現役時代から、新宿区の皆様には大変お世話になりました。

まずは、色々なサポート、応援をしていただき、選手としてオリンピックの舞台に立てたことが、私にとってすごく大きな財産となっています。

そして、現役を引退した後も、新宿区のスポーツ栄誉賞であったり、当区民協議会の場に呼んでいただいたりと、それまで選手としてしか活動してこなかった私を受け入れていただきました。東京2020大会に向けた気運醸成の取組みに積極的に参加させていただいたことによって、区民の皆様や子どもたちの思いに触れ、改めてスポーツのすばらしさを実感することができました。

東京2020大会に向けては、もしかしたらうまくいかなかったことの方が多かったかもしれません。色々な方々の支えがなければ、コロナ禍においてこの大会を成功どころか、そもそも開催することもできなかったのではないかと思います。そういった状況でも、人と人との関わり、支えあいにより大会が開催されたことを本当に嬉しく思いますし、また、この経験が小学生や中学生といった子どもたちへのレガシーにも必ずつながっていくと思います。

これからも、私はスポーツを通して、喜びや感動を伝えていきたいと思います。新宿区の皆様にも必ず恩返しをしていきたいと思いますので、これからもよろしく願いいたします。そして、この区民協議会に参加させていただき、本当にありがとうございました。

【村岡座長】

ありがとうございました。

また、この協議会のもとには東京2020大会普及啓発部会、そしてボランティア部会を設置し、平成29年度から令和元年度まで、各部会において、より具体的な議論を行ってきました。

各部会長からご発言をお願いできればと存じます。最初に、ボランティア部会の部会長である鈴木副座長をお願いいたします。

【鈴木副座長】

ボランティア部会の部会長として、部会の進行等を務めさせていただきました。

これまでの取組みの総括として、次の3点にまとめます。

第一に、東京2020大会のボランティアへの参加促進。

第二に、地域におけるボランティア活動の参加促進。

第三に、子どもたちへのボランティア気運の醸成。

その成果の一つとして、区独自ボランティアである新宿2020サポーターが設立され、500名の参加を得たということです。また、カウントダウンイベント等におけるボランティアの募集、それから実際に大会ボランティアに携わった方々との交流といったPR活動等の推進も行ってきました。

また、実際の大会においては、パラリンピック競技観戦を通じて、子どもたちがボランティアの存在や意義を体感できる場面も提供することができたと思います。

どうしても東京2020大会のボランティアというと、組織委員会や東京都といった大きい組織

のボランティアに目が移ってしまいます。当初、新宿で何ができるかを考える中で、少しマイナスな捉え方ではありましたが、組織委員会や東京都のボランティアのハードルが高かったため、そこに入れなかった方々の受け皿になると考えていました。しかし、実際に始まってみると、区民の方々の希望ややりたいという気持ち、そういった前向きな反応が、1年、2年とPRしていく中で次第に高まり、最終的に500名の登録という数につながったのではないかと思います。

そのため、コロナ禍での無観客やイベントの中止により、実際のボランティア活動ができなかったことが残念です。

さらには、中学生についても、38名の登録がありました。カウントダウンイベントやおもてなしボランティア等において、積極的に活動したという報告を聞いています。こうして、子どもたちにも少なからず良い影響は与えたのではないかと思います。

さて、それらを通じて、今後区内のボランティアをどう発展させるか、どういったレガシーを残すかが重要です。東京都が「東京ボランティアレガシーネットワーク」の募集を開始すると伺いました。新宿区として、500名の方々にこういう機会があることを情報提供することは必要ですが、新宿の中に、健康やスポーツ、教育、文化、産業、観光といった様々な場面で区民が参加できる、活動できる場があることを踏まえ、むしろ、新宿区のボランティアレガシーネットワークを展開していただきたい。当協議会委員の皆様からも知見をいただいた上で、ぜひ区長に強力なリーダーシップを発揮していただき、区の施策につなげていってほしいと思います。

私は25年以上、博物館のボランティアから始まり、まちの案内ボランティアなど、様々な活動を見てきました。東京2020大会という、これだけ大規模なスポーツの大会を契機に、新宿区の中でも500名にのぼる方からボランティアをやりたいという声が上がったことは、とても大きな力だと思います。区のボランティアガイドの中には、様々な活動をしている団体が記載されていますが、おそらく現在、人手不足や地域の活性化がままならないといった、色々な課題を抱えていると思いますので、そういった現場と500名のサポーターをつなぐということを実現していただきたいと考えています。

「関わる」「つなげる」「巻き込む」というキーワードは、ボランティアの世界では頻繁に飛び交っています。上から下へということではなく、横のつながりを広げていくための方向性を見つけてほしいと思います。

【村岡座長】

ありがとうございました。

続いて、東京2020大会普及啓発部会の渡邊部会長からお願いいたします。

【渡邊部会長】

東京2020大会普及啓発部会では、平成30年度から普及啓発の方向性を検討し、次の3つのテーマでまとめました。

第一に、当協議会に参加されている各団体の主体的な取組みにおける普及活動の推進。

第二に、区の主催イベントと連携した普及啓発の推進。

第三に、ターゲットを明確にした効果的な普及啓発の推進。

この3つの観点から、振り返ります。

1点目、各団体の主体的な取組みに関しては、東京2020参画プログラムの認証の取得や東京2020オリンピック・パラリンピック区民参画事業助成等を活用して、独自の事業が多数行われたことと思います。各団体や地域がこれまで自主的に行ってきたイベントを東京2020大会と関連づけ、その中で大会のPRを行うことで、地域へのきめ細やかな気運醸成を図ることができたのではないかと思います。

そして、2点目、区のイベントと連携した普及啓発としては、区主催のカウントダウンイベントのうち、500日前の記念イベントからは、当協議会に関わる各団体がブース出展を行うなど、運営の担い手として参画していただきました。気運醸成の集大成と位置付けたコミュニティライブサイトは残念ながら中止になってしまいましたが、250日前の記念イベントでは、各団体が持つ強みやノウハウを集結させ、非常に効果的な普及啓発を行うことができたと考えています。

3点目、ターゲットを明確にした効果的な普及啓発についてです。特に子どもたちに向けては、気運醸成イベントにおける体験教室、絵画コンクール、陸上競技シルエットシールや配電地上機器の装飾など、多種多様な取組みを行いました。大会期間中のパラリンピック競技観戦などとともに、東京2020大会を一生の記憶として刻むことができたのではないかと思います。

また、高齢者を中心に多くの方が参加した東京五輪音頭-2020-講習会や、カウントダウンイベントにおけるダイバーシティウォールパズルアート等の障害理解推進の取組みなど、区内で働き、学び、活動する多様な人たちの参画が幅広く考慮されていたと思います。

以上の3点から、コロナ禍によって制約を受けた中でも、効果的な普及啓発ができました。今後は、こうした取組みをどのような形で残していくかが重要です。

第一に、大会を契機に実施した取組みを通じて、各団体や地域の活性化や一体感が生じたと思います。しばらく空いた期間がありますが、こういった取組みの記憶がまだ残っているうちに、今後も絶やさず継続・発展していけるよう、区が中心となってサポートし、見守っていくということが必要だと思います。

第二に、区が主催するイベントに関しては、当協議会を中心に区内で様々な団体が持つ強み・ノウハウを集結させて、より良いものにすることができたと思います。当協議会は本日で終了となりますが、大会を契機に強化された各主体間の連携を、今後も大規模イベントやその他の事業推進に役立てていってほしいと思います。

第三に、ターゲットを明確にした普及啓発としては、子どもたち、高齢者、障害者など、各層から幅広い運営参画が得られ、それぞれの記憶に残る大会になったと思います。今大会は、スポーツや文化の普及だけでなく、多様性の調和、バリアフリー化といった様々な変化のきっかけとなったと思われます。新宿の多様性豊かな地域性を生かし、教育、福祉、まちづくりなど様々な分野において、区が大会を契機に取り組んできたことを今後も継続してほしいと思

ます。

以上が、東京2020大会普及啓発部会としての総括となります。

さて、部会長として、最後にコメントさせていただきます。私自身、北京2008パラリンピックにプレスとして現場に入り、実際に大歓声の会場の中を経験したことで、できるだけこういった感動を子どもたちに体感してほしいと思っていました。幸い、今回のパラリンピックの競技観戦に子どもたちが行けたことは、非常に良かったと思います。

また、大会に向けた気運醸成イベント等は、当協議会の皆様にご協力をいただき、色々と試行錯誤しながら、大きな盛り上がりを図ることができたと思っています。今後はこれをきっかけとして、こうした団体同士が連携した取組みをさらに広げていってほしいと思います。

さらに、そういったイベントにおいて、今回参加していただいたボランティアや、イベントに参加していただいた団体のつながりを、今後もしっかりと継続していくことが重要だと思います。スポーツや健康、福祉など様々な分野があり、行政としてもそれぞれの部署があると思いますが、こういったボランティアや団体をうまくつなぎ、大会に向けた取組みを契機として築き上げた、区としての財産をうまく活かしていってほしいと思います。

【村岡座長】

ありがとうございました。

東京2020大会普及啓発部会は、幅広く色々なことに取り組んでいただきました。部会長の発言にあったように、地域として醸成された一体感が今後も継続されることを願っています。ありがとうございました。

それでは、その他の委員の皆様からも、一言ずつご発言をお願いします。

【委員】

皆様、長い間お疲れさまでした。町会としては、色々な制限がある中、ボランティアにしても、競技観戦に関しても、なかなか思うようにできなかったというところでは、マラソンについても、沿道からの応援が規制されており、思うように応援することはできませんでした。

大会直近の令和2年頃から、町会行事や気運醸成イベント等ができなくなりましたが、その前の平成30年から行われた東京五輪音頭-2020-講習会は、大変盛り上がりました。各地域で実施している盆踊りの際にこの五輪音頭を流して、練習してきた踊りを披露するというのが2年ほど続きました。最終的には、コロナ禍で盆踊りもできなくなってしまい残念でしたが、五輪音頭は地域でも大変な盛り上がりでした。

私が最も記憶に残っているのは、カウントダウンイベントです。西新宿小学校で実施された500日前記念イベントを思い出すと、雨で天気も悪かった中、たくさんの方にお越しいただきました。大変苦勞されたと思いますが、主催している側の一生懸命さが伝わり、参加された皆様が楽しんでいたので、成果があったのではないかと思います。

また、オリンピック聖火リレーの点火セレモニーに出席いたしました。ランナーの方々は沿道を走れず大変残念でしたが、皆様が笑顔で楽しそうにトーチキスをされていたのを見て、非常に良かったと思いました。

パラリンピックは露出度が低かった分、あまり関心が向かなかった部分もあるかと思いますが、ボッチャなどの身近なスポーツがパラリンピックの種目にあるということで、これから、も地域で、盛んに取り組まれるのではないかと期待しています。

当協議会の皆様、そして事務局の皆様、大変苦勞されたと思いますが、本当にお疲れさまでした。どうもありがとうございました。

【委員】

商店会連合会としては、商店街の街路灯にオリンピック・パラリンピックのフラッグを掲げ、気運醸成の各種イベントを企画してきました。しかし、大会の1年延期や感染症が収束しない状況の中で、イベントは中止になりました。また、大会が無観客開催となったことに伴い、町に回遊する人が少なくなり、オリンピック・パラリンピックよりも感染症対応に迫られた、というのが実感です。そのため、商店会連合会として、オリンピック・パラリンピックに特筆する貢献ができなかった点が残念です。

個人的には、テレビで観戦し、選手を応援しました。大会を通じて、感染症がそれほど広まらなかったことは、商店会にとっても良かったと思っています。

【委員】

商業的には、人流抑制の影響があり、なかなか思うようになりませんでした。しかしながら、皆様のお話にあったとおり、各地域においては、様々な形で興味を持っていただけたと思いますので、これをぜひ今後の地域活動に活かしていただければと思います。ありがとうございました。

【委員】

新宿観光振興協会は2014年に設立されましたが、2013年頃はその準備委員会を設立して、今後の新宿の観光はどうあるべきかと検討している段階でした。そうした中、2013年8月、来年関西で行われるワールドマスターズゲームズ関西2021（世界最大級の生涯スポーツの祭典）の招致が決定しました。そして、その翌月には、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が決定しました。

2010年には、ラグビーワールドカップ2019の日本開催が決まっていたため、2019年、2020年、2021年の3年間は非常に忙しい時期と捉え、これを目指して観光振興協会としても様々な準備を重ねてきました。

ただ、2020年に入ってから、観光で来日するインバウンドのお客様が非常に減少しました。新宿駅東南口の観光案内所では、それまで一日700名近くの来所があったところ、100名以下、日によっては50名以下という日が続きました。また、200名ほどいらした会員の中でも、インバウンドを主にしている会社の方は退会されるということもありました。飲食店も営業が制限され、新宿の街もどうなるかと思いましたが、吉住区長が立ち上がり、色々な策を練っていただき、現在のような状況になっています。

2022年にワールドマスターズゲームズ関西が開催される予定です。東京から離れていますが、そちらを目的に多くの方の海外の方に来日していただき、ぜひとも東京に、その中でも新宿に来て

いただき、しっかりとしたおもてなしをしたいと思います。それぞれの国に帰ったときに、また東京へ行こうと、新宿に行こうとと思っていただけるような取組みを進めていきたいと思っています。

また、新宿観光振興協会にできることがあれば、ご連絡いただければと思います。皆様と一緒に、新宿を盛り上げていきたいと思っています。

【委員】

新宿未来創造財団は、区独自のボランティア「新宿2020サポーター」の登録や申込みの事務を担当し、大変勉強させていただきました。

先ほど説明にあったとおり、500名という多くの方々に登録していただきました。ただ、令和2年以降、どうしてもイベントに関わることができないということで、大変残念な気持ちになられた方も多いと思います。

しかしながら、オリパラ担当課よりボランティアガイドを配布していただいたとおり、新宿未来創造財団においては、生涯学習支援者バンク制度、アーティストバンク制度、また、日本語ボランティア、通訳・翻訳ボランティア等々、たくさんのボランティア制度を運営しています。幸い、新宿2020サポーターに登録された方の中でも半数程度、当財団の人材バンク制度に移っても良いという意味を示していただいています。今後も地域におけるスポーツ振興や共生社会の推進は続いていきますので、そういった方々を大事に、色々なイベントでぜひ活躍していただき、一緒に今後の新宿を盛り上げていきたいと思っています。今後とも、皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

【委員】

まずは、率直に、東京2020オリンピック・パラリンピックが無事開会され、閉会されたことに安堵しています。新宿区におきましては、当協議会が発足し、1,000日前イベント、500日前イベントといったカウントダウンイベントやアスリートの皆様によるイベント等、多くの事業が実施され、多くの方が参加していただき、その成果を見ることができたと考えています。

本来であれば、スポーツに関連する事業は、新宿区体育協会として、主として活動するところでしたが、昨年からのコロナ禍もあり、協会一丸となってまでは協力できなかったことが悔やまれます。ただ、今後につきましては、この大会を期に、多くの方がスポーツに参加していただけたと思いますので、そのような方々を一人でも多く受け入れていきたいと思っています。

少し話は変わりますが、私がこのオリンピック・パラリンピックの開催を強く意識したのは、7月23日、8月20日に行われましたオリンピック・パラリンピックの聖火リレーの点火セレモニーです。両日とも好天に恵まれ、暑い日になりましたが、やはり聖火ランナーを見たとき、「ようやくこの日が来た、ようやくオリンピック・パラリンピックが実施される」と感無量になったことを覚えています。

もう一点、良かったことは、子どもたちのパラリンピック競技の観戦です。子どもたちが実際に会場に行って、パラリンピック競技を自分たちの目で見たことは、実に有意義なことと思います。他の区市町村が思うように実施できない中、新宿区は感染症防止対策を講じながら、

実施していただきました。この観戦を英断していただいた関係者の皆様には、心から感謝しています。ありがとうございました。

最後になりますが、私自身、オリンピック・パラリンピックは単にスポーツの祭典と思っていましたが、当協議会に参加させていただき、委員の皆様のお話を聞くことにより、文化交流や地域振興まで、多くのことが関係していることを学ぶことができました。オリンピック・パラリンピックを単に見るだけではなく、色々な形で考え、その一端を担うことできたことに感謝しています。皆様、本当に長い間ありがとうございました。

【委員】

2017年から、約5年間という長きにわたり、当協議会の委員の皆様と様々なイベントを企画し、取組みを行ってきたことをしみじみと実感しています。カウントダウンイベントは、まさに新宿区民の協力の下に成り立ち、東京2020大会の気運醸成に向けて区民が一丸となって取り組んだイベントであったと実感しています。

今回、オリンピック・パラリンピックが東京で開かれたことが非常に大きな意味があると思います。特に、多様性の都市である新宿区を全世界にアピールできたことを、非常に強く実感しています。障害者団体としては、障害を持つマイノリティの方々が地域の中でいかに皆様と協力しながら生活していくかという「共生社会の実現」に向けて、一歩近づいてきたのではないかと思います。

様々な競技で選手が一喜一憂して涙を流し、喜び、称え合う姿を見られたことに非常に感動し、スポーツの力は偉大だということを感じました。できれば、先ほどから話があったように、500名の登録があったボランティアの方々が、今後の地域の中で活動していただけるような取組みを考え、活かしていただければと思います。

コロナ禍で大変な困難がある中での開催となり、関係された方々には本当にご苦勞があったのではないかと思います。どうもありがとうございました。

【委員】

幼稚園では、オリンピック・パラリンピックの行事は中止になり、小・中学生のように観戦はできませんでしたが、テレビを通じて、子どもたちと一緒に青いタオルを振って応援しました。

当協議会に出席できたことに感謝しています。ありがとうございました。

【委員】

私自身、スポーツには関わらずに育ってきて、親しみがありませんでした。娘が生まれ、遊びに付き合う体力を残そうと思い、ジョギングを始めたり、プールで泳いだり、スキーを始めたりといったことにより、競技ではないスポーツの楽しみを少しずつ学んできましたが、それでもスポーツを見に行くことにはあまり興味がありませんでした。

しかし、大会期間中に偶然、娘と歩いて帰ってくる際に外堀通りが通行止めで、地下道を通って反対側に行くと、パラリンピックのマラソンが通るということを聞いたので、少し見ていくことにしました。すると、すさまじく早い車椅子が目の前を駆け抜けていくのを見て、本当

に感動しました。

それが実感できたことは非常に楽しく、また、おそらく娘も観戦したときに見たものには大きな感動があったと思います。そして、新宿の中でこういった感動を持った方は、数多くいたのではないかと思います。

それがレガシーという言葉かはわかりませんが、スポーツの普及につながり、新宿のスポーツが親しみやすく、楽しめる環境になっていったら素晴らしいと思います。

今回のオリンピックで活躍された陸上女子1,500メートルのト部蘭さんは、早稲田小学校の卒業生ということで、早稲田小学校にはマラソン大会があって、その大会で誰が速いという話を娘から聞いていました。その大会でちょっとでも速くなれたという、その先の先にオリンピックがあるということは、本当に夢のある話だと思いました。また、ト部さんは、まさにこの近くのスポーツセンターの周りを走って練習されたというお話も聞き、子どもたちのスポーツと公園で走る姿がオリンピックまでつながるような楽しみに変わったのが、今回の大会だと思いました。今後、それをレガシーとして、どんどんつなげていけたらと思います。

先ほど、お話に上がった、「つなげる」「巻き込む」という点についてですが、真剣に遊ぼうとすると、大都会である新宿は、遊び場としては正直少し小さいところがあります。一方で、新宿は非常に交通の便がいいので、高尾山まで電車ですぐに行って山を登ったり、埼玉に行って荒川の土手を走ったり、そういった面ではすごく便利です。できればこの先、新宿だけに閉じこもるのではなく、色々な地域とつながりながら、楽しみとしてのスポーツの輪を広げていただけたら、区民の皆様がもっと楽しめるのではないかと思います。

【委員】

ちょうど平成29年、フラッグツアー等のオリンピック・パラリンピックの気運醸成イベントが始まった時に、小学校のPTAの役員をさせていただきました。小学校PTA連合会の方でもさまざまなイベントを実施し、そういったものに子どもたちが参加している姿を見るなど、この東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、子どもたちと一緒に色々なことを経験させていただきました。

また、息子が中学生になったときには、おもてなしボランティアにすごく意欲的で、自ら応募して参加し、写真を撮っていただきました。外国人の方に英語でインタビューするといった体験をすごく楽しんで、生き生きして帰ってきました。

しかし、この2020年を迎えるにあたり、やはり中学校の3年間は非常にタイトな中、コロナ禍で学校に行けなかったり、色々なものができなくなったり、習い事も行けなかったり、そういった非日常を日々過ごしていくことがとても大変で、実際にこの一大イベントのオリンピック・パラリンピックというものを、ボランティアや色々なイベントをやってきたときの熱量のまま楽しめるかという、少しその余裕はなかったと感じました。

それでも、四谷にある小学校の場所柄、競技場の建設も間近に見てきていました。また、開会式のときはベランダからドローンを見ては喜んで、テレビでもオリンピック・パラリンピックを観戦しました。個人的には、パラリンピックの沈黙のスポーツと言われるゴールボールを

初めて見たときに、すごく研ぎ澄まされている感じがして、ぜひやってみたくて思いました。

【委員】

2017年度から皆様と東京2020大会に携わることができ、本当にありがとうございました。

振り返ると、コロナ前に様々な気運醸成イベントが行われていました。過去の記念イベントなどを懐かしく振り返ってみると、本当に私を含めて多くの区民の方々が、アスリートの方々とともにスポーツを楽しんで東京2020大会に関心を持つことができ、パラスポーツの体験を通じて、障害理解を深めていけたように思います。

多くのイベントが中止になったことは大変残念ですが、それでもできる形で皆様に大会をPRしていただけたことは本当に感謝しています。

小中学生が学校連携観戦をしたり、新宿2020サポーターに登録された方が多数いらっしゃったりと、本当にそれぞれが様々な形で大会に関心を持ち、選手の活躍に感動されたのではないかと思います。

東京2020大会は終わってしまいましたが、この大会を契機とした取組みを今後も継続していただきたいです。特に、教育の場において、パラスポーツや障害者体験を通じて、障害理解を深め、その差別を解消していくことが必要だと思います。ぜひ今後も経常的に、推進していただければと思います。

本当に長い間ありがとうございました。

【委員】

困難な状況の中、ここまで前向きに、できる限り良い機会を区民に提供するために、皆様が精いっぱい努力して下さったことを知って、感謝の気持ちでいっぱいです。

中学生と小学生の息子がいますが、学校でオリンピック・パラリンピックに関する様々なイベントに参加して非常に興味を持ち、図書館に行って本を借り、家庭の中で一緒に話をしたり、オリンピックの本を買って読んだりといったことをしました。私が小学校のときは、日本がほかの国に勝ったといったことで喜んでいただけのように思いますが、息子たちの世代は異なり、多様性とは何かと聞いてきたり、インクルーシブといった言葉や概念に関心を持つようになっています。そういった意識を醸成していただいたことが、今後彼らが大人になったときに大きく影響するのではと期待しています。

多文化共生まちづくり会議委員としては、これからのボランティアの推進において、新宿には様々な日本以外の言語を話せる方がたくさんいますので、そうした方々の言語の力を活かし、より多くのボランティアに参加できる仕組みを作っていただきたいと思います。

キーワードになるのは、情報共有の壁をなくす、バリアフリー化です。まちづくりで物質的なバリアフリー化ではなくて、情報のバリアフリー化を大切にしてほしいと思います。できるだけやさしい日本語や、多言語に適応したシステムを使って、ボランティアにも積極的に参加できるような仕組みを作っていただきたいと願います。

【委員】

スポーツ推進委員協議会として気運醸成イベントに協力させていただいた中で、最も印象に

残っているのは、伊勢丹新宿で行われた聖火トーチイベントの受付をしたことです。いつもはジャージを着て活動している私たちが、スーツを着て集団で受付をしたので、伊勢丹の職員になったような気分で活動させていただきました。

スポーツ推進委員としては、コロナ禍で団体では動けなかったのですが、東京都のボランティア、新宿のボランティアに登録した人がいたり、ブラインドサッカーで審判を務めたり、オリンピック・パラリンピック聖火ランナーを務めたりと、それぞれの委員が個人として、自分の興味があるところへ参加し、効率的に動いていました。

また、落合第一地区では、三井アドバイザーが出演された二度のオリンピックで横断幕を掲げたり、皆でパブリックビューイングを行ったり、地域を挙げて応援しました。東京2020大会では、東京五輪音頭-2020-を三井アドバイザーに踊ってもらいたいという要望を受け、二人で町会の盆踊りに行きました。三井アドバイザーには、ずっと汗だくで踊っていただきました。

そういった点で、東京2020大会に関わることができて良かったと思います。

【委員】

はじめに、大会区民協議会に関わっていただいた皆様、ここまでの活動や熱心な議論について、厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

当協議会でいただいた意見などは、区議会の委員会等でも報告し、議論の参考にさせていただきました。

本日出た観戦プログラムの感想やボランティアの活用、地域にしっかりと根ざした活動等についても、明日の委員会に持ち帰り、区議会の方でもしっかりと議論させていただきたいと思っています。本当にありがとうございました。

【委員】

協議会の皆様方、長年携わっていただきましてありがとうございます。また、職員の皆様方も誠にありがとうございます。

最後に無観客開催となり、皆様携わっていただいたにも関わらず、現場が見られなかったというのは、すごい心苦しいことと思います。

来年は実施できませんが、再来年は新宿シティハーフマラソンがありますので、国立競技場がどのようなところかを見られる機会になればと存じます。スポーツのつながり、新宿区のつながりという形で、これからも引き継いでいていただきたいと思います。

長年にわたりご議論いただき、誠にありがとうございました。

【村岡座長】

委員の皆様、ありがとうございました。

区民、各関係団体、事業者、学校等、それぞれの視点から貴重な発言をいただきました。

では、最後になりますが、区を代表して吉住区長からご発言をお願いできますでしょうか。

【吉住委員】

村岡座長をはじめ委員の皆様、大会の延期を受けて任期を伸ばしていただき、最後までご協力いただきありがとうございます。鈴木副座長、渡邊部会長におかれましては、各部会を率い

ていただき、ありがとうございました。また、三井アドバイザーは、当初「アドバイザー」として就任していただきましたが、次第に「マネージャー」のような形で、色々なイベントのコーディネートをしていただきました。子どもたちに本当に貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

只今、委員の皆様から色々とお話しいただきましたが、区として、大会を契機に取り組んできて盛り上がったものをそのまま消してしまうのか、それとも本当の意味でのレガシーとして引き継いでいくのか。その点は、今後私達が試されていて、ぜひ取り組んでいかなければならないことだと思っています。

ボランティアについては、この大規模なイベントに際して思い切って手を挙げていただいた方々が、今後まちとの関わり、地域の中での関わりがなくなってしまうとは思いません。引き続き、どういうことができるか、しっかり検討させていただきます。

また、情報共有の話がありましたが、当協議会は当初、団体によって大会に関する情報をもたえなかったということが後で起こらないように、という目的をもってスタートしました。

そして、今後生きていく中で、不況や災害など色々な波が来ると思いますが、この世界的な規模のイベントを通じて、町会、商店会、スポーツ団体、PTAの皆様、学校の生徒・児童、産業界といった色々な方々が後々、「あのときこんなことをやったね」「あのときあれだけ頑張れたからもう一回頑張ってみよう」と、そういった波を乗り越える起爆剤になってもらえたらという思いもありました。

さらに、大分つながりが希薄になってきた時代の中で、そのつながりをもう一度取り戻す機会としたいと思っていました。その点では、皆様に非常に積極的に関わっていただけたことに、本当に感謝しています。

最終的に色々なイベントを中止せざるを得なくなり、コミュニティライブサイトまでは潔く、私の方で中止の判断をしました。一方で、子どもたちの競技観戦については、今生きている方々が50年以上も前に行われたオリンピックのことを鮮明に覚えていらっしゃるということもあり、できれば区内の子どもたちにしっかりと大会の記憶を刻んでほしいと考えました。感染拡大防止は、大人の責任です。そのため、私と教育長が何を言われたとしても、最後まで責任を取るという思いで、子どもたちの競技観戦は実施させていただきました。

皆様、ご協力いただき、本当にありがとうございました。大変お世話になりました。

【村岡座長】

ありがとうございました。

今回、委員の皆様からいただきましたご意見の趣旨については、可能な限り区が作成する報告書に反映していただければと思います。

では、以上をもちまして、東京2020大会に係る区の実施の総括とさせていただきます。ありがとうございました。

次に、次第の4、区からの情報提供です。

事務局より、説明をお願いいたします。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

色々なご意見をいただき、ありがとうございました。

報告書は、12月の発行を予定しています。完成した際には、皆様にお送りいたします。

また、東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課は、本年度中は存続しますので、本日の資料や今後の取組み等について、何か質問などがございましたら、ぜひご連絡いただければと思います。

最後に、先ほど鈴木副座長にご指摘いただいた点について、補足いたします。

東京都の東京ボランティアレガシーネットワークは、新宿2020サポーターの最終的な到達点ということではありませんが、ボランティアの活動と交流というキーワードも入っているため、一つのツールとしてサポーターの皆様を紹介させていただきたいと思っています。

新宿区での活動に手を挙げていただいた500名のサポーターの皆様をどういう形で今後につなげていくかということについては、引き続き考えさせていただきたいと思っています。もしそのアイデア等もありましたら、今後もご意見を頂戴できればと思っています。

【村岡座長】

ありがとうございました。

それでは、これもちまして令和3年度第2回新宿区東京2020大会区民協議会を閉会いたします。

冒頭で申し上げましたとおり、当協議会の活動はこれにて終了となります。座長として、最後に一言ご挨拶を申し上げます。

先ほど申し上げたとおり、当協議会は2017年7月に発足し、これまでに書面開催を含めて計13回開催させていただきました。委員の皆様とともに、毎回大変有意義で、かつ内容の濃い意見交換を行うことができたと考えています。これもひとえに、当協議会に関わっていただいた委員の皆様が、新宿区内における東京2020大会の気運醸成やレガシーの創出に向けて、それぞれの立場から真摯に向き合い、ご尽力をいただいた賜物と感謝しています。

東京2020大会に向けた取組みは、首都圏を中心として多くのところで行われたと思いますが、新宿区では区民や各団体、それから子どもたちの主体的な参加を重視したという点で、特徴的であったと思います。

また、多くのパートナーによる参画が得られたことも、イベントの祝祭感を高める上で役立ったものと感じています。

東京2020大会では、新型コロナウイルス感染症の影響で大会が1年以上延期され、また、ほとんどの会場において無観客で競技が行われました。さらに、関係者による差別的な発言などさまざまな問題も噴出し、負のレガシーを取り沙汰されたこともありました。

しかしながら、国立競技場の地元である新宿区においては、次世代を担う子どもたちを中心に、多くの区民にとって生涯の記憶に残るすばらしい大会になったと確信しています。当協議会が様々な取組みを通じて、その一翼を担うことができたことを大変嬉しく思うとともに、皆様に深く感謝を申し上げます。

一方で、新宿区でもコロナ禍での相次ぐイベントの中止、それに伴うボランティアの活動機会の減少など、必ずしも計画どおりに事業を推進することができず、残念な思いをした部分もあると思います。しかしながら、この大会に向けた取組みは、新宿区にとってゴールではなく、スタートだと思えます。この取組みを今後も継続して行うとともに、当協議会を通じて固く結ばれた皆様同士の絆を十分に活かして、各分野における課題の解決やさらなる発展を目指していただけるものと期待しています。

最後になりますが、委員の皆様を支えられて無事に座長を務め終えることができたことに改めて御礼を申し上げるとともに、皆様方のご健勝と今後の益々のご活躍を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

それでは、以上をもちまして、新宿区東京2020大会区民協議会を閉会とさせていただきます。皆様、4年間にわたり本当にお世話になりました。ありがとうございました。

<閉会>